

スマートキッズCity “YAOCO” –成長への切れ目のない支援事業【医療・福祉、教育】

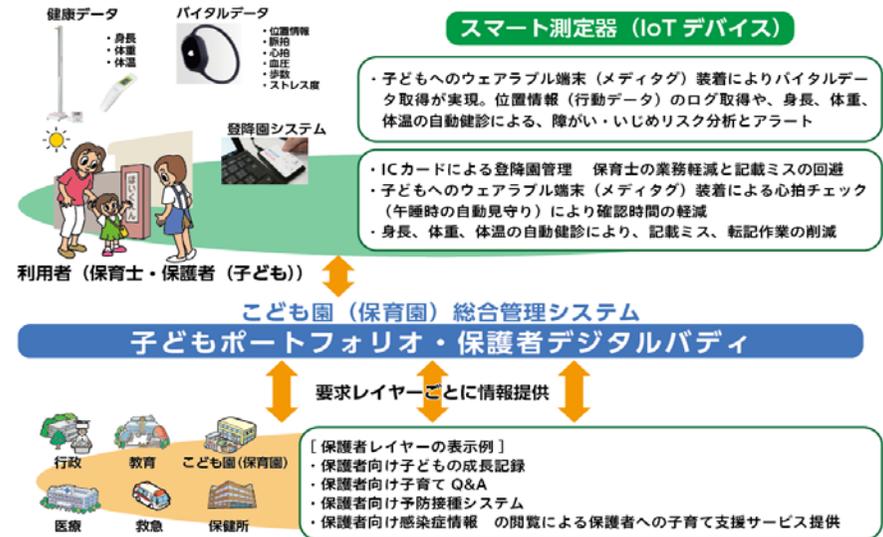
地域課題

子どもの軽度発達障害(以下、障がい)やいじめ等、保護者の子育てリスクは高まっており、かつ、信頼・安心できる子育て情報は少ない状況にある。
一方、保育園においても保育士の業務負担は増大しており、保育士の肉体的精神的負荷は重くなっている。

こうした子育てを取り巻く実態をうけ

本事業では、子どもの日常生活等から収集するビックデータを活用し、

- ①障がい・いじめのリスク兆候予測
- ②健康記録の自動化による保育士の仕事の軽減
- ③保護者のデジタルボディ(子育てをする保護者のバーチャル伴走者)
予防接種・感染症管理、子どもの健康状態、信頼できる子育て情報提供等、標準的システムモデルを構築するものである。



子ども/保護者/保育士にとって最適な子育て環境の実現

1. 障がい・いじめの兆候

- ・障がいの早期発見リスク
- ・いじめの早期発見リスク

2. 保育士の業務負担

- ・登降園時の時間管理作業(台帳への本人記入確認、転記)
- ・午睡時のうつぶせ寝による突然死に回避(5分に1回の確認)
- ・身長、体重、体温の健診作業(確認、転記作業)

3. 信頼・安心出来る情報の提供度

- ・WEB上での子育て情報過多・保護者からの問合せ対応
- ・過敏な感染情報氾濫
- ・予防接種の正確な記録

得られた成果

- ・実証こども園で、障がいやいじめの兆候を知ることで、園児における障がいや疑わしい園児が**3名(9%)**見つかった。
- ・実証こども園における事務作業の為の時間が保育士一人1日平均**13.86分**削減された。
- ・保護者のこども園に対する満足度が**70%**となった。(ウェアラブル端末装着33名の園児保護者による5段階アンケート)